

平成 20 年 9 月 8 日

第 6 回天塩川魚類生息環境保全に関する専門家会議のまとめについて

天塩川魚類生息環境保全に関する専門家会議
座長 辻井達一

第 6 回専門家会議後の記者会見において、報道機関より会議の際に粟倉委員から紹介のあったコガタカワシンジュガイについて絶滅危惧種 類との説明がなく各委員にその認識の無いまま審議がされたのではないかと指摘がございました。そのため、その情報も含め各委員へカワシンジュガイ類についてのその後の調査結果及び粟倉委員のコメント等（別紙 1 - 2）をお知らせし、意見を伺いました。

各委員からの意見を踏まえ、「第 6 回専門家会議のまとめ」及び「魚道試験の実施について」をとりまとめましたのでお知らせいたします。

なお、9 月 5 日付けで市民団体等から「サンルダム本体着工予算計上と魚道試験・魚類専門家会議運営についての要望書」の文書をいただいておりますが、専門家会議では、これまでいただいたご意見も踏まえ審議を進め、以下の通りとりまとめたところです。今後ともいただいたご意見も踏まえ検討したいと考えております。

第 6 回の専門家会議のまとめとして

1. 生息環境保全について

現在、取りまとめ中の天塩川魚類専門家会議に関する整理表については、各委員の意見を踏まえ、引き続き整理しハンドブックなど今後の川づくりの参考となるようにとりまとめる。

2. 連続性確保について

- ・水系全体での魚道整備等については、各委員の意見を踏まえ、さらに整理を進めること。
- ・サンル川における調査用魚道試験については、以下の点から、十分に準備をした上で実施すること。
 - 1) サクラマスの遡上時期が限られており、機会を逃さず実施することが必要であること。
 - 2) 迷入防止対策や魚道入口構造の確認等の実際に想定される流況下での遡上実態を確認できるため、有効であること。
 - 3) 調査地点付近に生息するカワシンジュガイおよびコガタカワシンジュガイについては、適切な保全対策を行うこと。
- ・実施にあたっての留意事項として、魚道下流等において明らかに従来より多くの産卵が行われた場合や遡上に失敗するサクラマスが多数確認された場合など明確な支障が生じた場合には、速やかに締め切りを外すなどの対応をしたうえで改善を図ること。
- ・モニタリング計画を含むサンルダム魚類対策のまとめについては、基本的な考え方について理解する。なお、今後の知見等を踏まえ改善等をはかること。

3. その他

- ・ 流域の水循環をも考慮し、時間軸をも含めての検討も視野に入れ考えること。
- ・ よせられた意見、要望については、開発局が必要に応じて各委員の意見を踏まえ対応すること。

魚道試験の実施について

カワシンジュガイ類については適切な保全対策が行われており、魚道試験を実施することは適切と判断する。

別紙 1 - 2

栗倉委員のコメント

調査用魚道周辺に生息していたカワシンジュガイ（絶滅危惧種 類）、コガタカワシンジュガイ（絶滅危惧種 類）については、6 回にわたる調査・移植を行い、適切に保全対策を実施されたと考えます。特に、調査に伴う土嚢設置個所周辺については、十分な対策がとられております。

調査手法は目視および手探りにより行ないましたが、この手法により採捕できない小さな貝については移植できないこととなりますが、カワシンジュガイ類は特に寿命が長く、その生殖機能は生涯維持すると云われておりますので、生殖機能を有する大きさの貝については移植されることになるため、今回の保全対策で世代交代を維持することが可能と考えます。

移植先は元々カワシンジュガイとコガタカワシンジュガイが生息していた場所であり、移植後も過密状態でないことから、移植先として問題ないと考えます。なお、引き続きモニタリング調査を実施することが必要です。